

講演会「中国経済は強いーそのシステムとポストコロナの世界経済」

(2021 年 11 月 晃洋書房発行)

講師：古島義雄氏 中国経済・国際経済研究者 博士（経済学）

〔目次〕

- ・ 第 1 章 中国異端論：国際政治経済面からの考察
- ・ 第 2 章 金融システム：国有銀行中心型システムからネットバンキングへ？
- ・ 第 3 章 財政システム：中央政府と地方政府
- ・ 第 4 章 企業システム：中国の企業とは何か
- ・ 第 5 章 社会保障システムと保険業界：企業から国家へ
- ・ 第 6 章 対外経済システム：「一帯一路」への路
- ・ 第 7 章 教育システム：科挙から科学立国へ
- ・ 第 8 章 中国の経済システム：中国経済は「地域分散型複合経済」である
- ・ 第 9 章 中国異端論を超えて：ポストコロナの正統と異端

第1章 中国異端論

ー国際政治経済面からの考察ー

第 1 節 日本異質論ー中国異端論の前例としてー

第 2 節 中国経済の実力

第 3 節 中国異端論の系譜

①ソ連の崩壊と冷戦の終結：天安門事件と孤立する中国

②BRICS、中国の台頭と崩壊のリスク：韜光養晦路線

③リーマンショックから中国の夢へ：「一帯一路」路線

④トゥキディデスの罠：米中対決必死論

第 4 節 なぜ中国異端論は、日本異質論に比べてタイミングが遅れたのか

第 5 節 結論

第 2 章 金融システム

ー国有銀行中心型からネットバンキングへ？ー

- ・ 第 1 節 中国金融システムの歴史的変遷と概観
- ・ 第 2 節 シャドーバンキングの背景と銀行行動の変容
- ・ 第 3 節 シャドーバンキングの現状と地方政府債務・不良債権問題

- 第4節 証券市場
- 第5節 ネット金融を巡る動き
- 第6節 人民元のデジタル通貨化
- 第7節 現代貨幣理論（MMT）と中国の金融システム
- 第8節 結論

第3章 財政システム

－中央政府と地方政府－

- 第1節 税制システムの推移
- 第2節 地方財政システムとその改革
- 第3節 財政システムの概観
- 第4節 結論

第4章 企業システム

－中国の企業とは何か－

- 第1節 企業改革の進展と企業形態の変容
- 第2節 大企業の保有構造
 - 世界における位置づけ
 - 中国大企業の保有構造
- 第3節 企業の保有形態についての歴史的考察
 - 中国において、企業とは何か
 - 中国企業のガバナンス
- 第4節 中国製造業の地域別特徴
 - 鉄鋼、自動車、家庭電器、電子機器産業のケース

第5章 社会保障システムと保険業界

- 第1節 人口問題：高齢化と都市化を巡って
- 第2節 社会保障システム
 - 歴史的変遷
 - 社会保障システムの現状
- 第3節 保険業界の歴史と現状
 - 保険業界の歴史
 - 保険業界の概要
- 第4節 結論

第6章 対外経済システム

「一帯一路」への路

- 第1節 対内直接投資と貿易の歴史と概況

- (1) 対内直接投資
- (2) 貿易

第2節 為替レートと人民元の国際化

- (1) 為替レートとその決定メカニズム
- (2) 人民元の国際化

第3節 対外ポジションの変化と対外直接投資(走出去)

第4節 「一带一路」構想

- (1) 「一带一路」構想の経緯
- (2) 「一带一路」構想の背景
- (3) 「一带一路」の実績と評価

第5節 アジアインフラ投資銀行の設立経緯と現状

第6節 結論

第7章 教育システム：科挙から科学立国へ

第1節 教育システムの変遷と概要

第2節 教育システムの特徴と課題

第3節 結論

第8章 中国の経済システム：

中国経済は「地域分散型複合経済」である

- 第1節 中国経済の概観
- 第2節 中国経済の論点
- 第3節 5カ年計画の概要とその意味
- 第4節 「ワシントンコンセンサス」と「北京コンセンサス」
- 第5節 中国型資本主義とはなにか：「地域分散型複合的資本主義」論
 - (1) 中国は社会主義か資本主義か
 - (2) 「国家資本主義」か「大衆資本主義」か
 - (3) アジア型資本主義
- 第6節 結論

第9章 中国異端論を超えて：

ポストコロナの正統と異端

- 第1節 新古典派経済学の揺らぎ：リーマンショック以降の政府の役割
- 第2節 政府の積極的な役割への期待
 - ダグラス・ノースの新制度学派
 - 青木昌彦の比較制度分析
 - ジョセフ・スティグリッツのラーニングエコノミー
 - 現代貨幣理論 (MMT)

- 第3節 新型コロナウイルス危機下の世界経済
- 第4節 AI ネット社会の勝者
- 第5節 中国モデル・北京コンセンサスの持続可能性と応用可能性
- 第6節 結論

.....

中国経済システムは持続可能性が高い

→中国経済は強い

1. 計画性。1952 年以来 5 ヶ年計画。現在第 18 次（2021～2025 年）。その他中長期計画（例。「中国製造 2025」）、民主主義国家では長期ビジョンは政権が交代すれば変更される。
2. 改革性。
3. 科学ないし進歩に対する信頼。AI 社会。
4. 経済政策を立案する上での民主性。

一方で他国への応用可能性は小さい。（以上のような持続可能性を他国は持たない）。

.....

各章始めの警句

- この世のものごとのすがたはこのように変わるものであり、諸帝国の中心といい、さまざまな財産の台帳といい、さまざまな地位の憲章といい、決定されたと思われたものも例外なくたえず改変されるから、人生の経験を積んだ人の目は、それだけは絶対変わることはありえないと思われた箇所に、これ以上はない変化を見てとることができるのだ。（第 1 章の始め『失われた時を求めて』マルセル・プルースト）
- 私はね、いつかも覚書に書いたとおり、現代におけるそのように巨額な報酬こそは、わが国のあやまれる経済政策を示すひとつの兆候だと思うがね。（第 8 章の始め『アンナ・カレーニナ』レフ・トルストイ）
- ある支配グループが権力を失う方法は 4 つのみである。外部から征服されてしまうか、無能な統治によって大衆を反乱へと駆り立てるか、不満を抱えた強力な中間層グループを出現させてしまうか、自らが統治に関する自信と意欲を失ってしまうかである。これらの原因が単独で作用することはなく、通常は 4 つすべてが程度の差こそあれ存在する。この 4 つを防ぐことのできる支配階級であれば、永久に権力を保持できるであろう。結局のところ、支配階級そのものの精神的態度こそが決定的要因なのである。（第 9 章の始め ジョージ・オーウェル『1984 年』）